

2010(平成22)年8月1日

第111号

毎月発行

編集

公民館だより編集室

発行

西東京市公民館

西東京市

公民館だより

田無公民館

南町5-6-11
TEL 461-1170

芝久保公民館

芝久保町5-4-48
TEL 461-9825

谷戸公民館

谷戸町1-17-2
TEL 421-3855

柳沢公民館

柳沢1-15-1
TEL 464-8211

ひばりが丘公民館

ひばりが丘2-3-4
TEL 424-3011

保谷駅前公民館

東町3-14-30
TEL 421-1125



インタビュー「あなたにとって、平和とは」



公民館利用者に、「あなたにとって、平和とは？」と訊いてみました。

答えてくださったのは、国籍も、年齢、性別もさまざまな人たちです。

*国籍の表記のない回答は日本人。

- “心の平和”です。毎日を楽しいと思えること、一緒にいる人たちも楽しんでもらえること…それを一番にできることが平和です。でも、自分が平和に感じられるということの裏には、社会的な仕組みなりがきちんと働いている…という現実には確実にあります。ですから、社会人としても役割を果たしたいです。(30代・女性)
- 争いがなくて、人間らしく生きられること。いいものじゃないですか。(15歳・男性)
- みんなが笑顔で、気持ちが平和であること。(18歳・男性)
- 戦争がないこと、争いがなく、対立がないこと、泥棒がいなく、犯罪がないこと、今は平和ではない。(13歳・男性)
- 愛、平等、相手を思いやること。(50代・女性)
- 平和について日頃意識してこなかったが、最近、外国の紛争地域や沖縄の基地問題などをニュースで見て、平和ボケしている自分に気づいた。今の状態が当たり前ではないんだよと自分の子どもに意識付けしていきたい。(40代・女性)
- わからない、ぱっと言われても…生まれてずっと平和だから。今こうして文化活動ができることが平和。息子が戦争に行かなくていい社会。(60代・女性)
- いつもどおりに過ごせること。友だち4人で宿泊し、料理をしたり楽しいひと時を過ごしているときに、ふと、平和だな、と思います。(16歳・男性)
- 日本はなんでもある。危なくない(治安がよい)、交通のアクセスがよい、食べ物豊富、すべてに満足している。これが平和といえる。(40代・女性・フィリピン)
- 一人ひとり、お互いに嘘をつかず、いじめもせず、話をすることが平和である。(20代・女性・ミャンマー)
- 自分らしく生活できること、行動できることが平和かな。自由に行動できないのは平和とはいえない。(30代・女性・韓国)
- いつもニコニコ顔して、フレンドリーに過ごすこと。人との関係、国との関係においてもお互いに助け合うこと。それが達成できて私も平和です。みんなもそうあってほしい。(40代・女性・メキシコ)

- 日本人は優しい。家族そろって健康で過ごしたい。できればまわりみんなと仲良くしていきたい。日本にはテロリストがいなく安全だと思う。ここに暮らしている私は平和です。(30代・女性・インド)
- いじめもなく、戦争もなく、地球の自然環境の破壊をなくして、自然を保護しながら豊かに暮らせれば平和であると思う。(30代・女性・中国)
- 心おだやかな状態が平和でしょう。国同士の平和ももちろん大事ですが、それ以前に一人ひとりの穏やかな心の持ち方が大切だと思います。(50代・女性・スリランカ)
- 私は戦争や争いごとがなく暮らしてきたので、ときどきそのことへの感謝を忘れてしまいます。両親がベトナムを出てオーストラリアへ移住した勇気に感謝しています。それで私は平和に生活してこられたのですから。(30代・男性・オーストラリア)
- 個人的にも、国家レベルでも、また世界規模でも、真の人権尊重、真の正義に基づく機会が、世界中の人々に与えられることで実現するのが平和です。しかし、現実の世界では、常に他の人々を、他国を踏みにじて実現する平和を意味しています。それは、実現しても一時的な虚構の平和であり、先進国の利益誘導の、いわゆる不正義に基づく解決である限り、戦争や紛争はなくならないと思います。「世界平和は実現可能?」……残念ですが、とても悲観的です。(50代・男性・ヨルダン)



アフガニスタンの笑顔の子どもたち
写真提供=市川斉(シャンティ国際ボランティア会)

さて、あなたにとって、平和とは… 今、平和ですか？

サークル訪問

「柳ネーゼ」

「柳沢に「柳ネーゼ」あり！」

柳沢公民館を拠点に、若きママたちが集まりユニークな活動をしているサークルがあります。一昨年の柳沢公民館主催「乳幼児を持つお母さんの講座」終了後、13人の参加者が集まり、発足しました。代表者は現役歌手、CDまで出しているお母さんです。

この講座に参加したきっかけは、「子どもを保育室に預けて学習できる」、「1日中子どもと向き合っている」と、暴言を吐きそうになる、「閉塞感を感じながら、毎日を過ごしている」等々。

講座の最初、講師の先生から、「親子の関係ではなく、それぞれ1人の人間として認め合い、個性が発揮されてこそ、真の人間関係が築き上げられる」との言葉にハッと、これまでの自分から、一気に解き放たれた心になった、そして20回の講座から、参加者同士が近づき刺激を受けながら少しずつ変わっていく自分を発見していったそうです。

を開催したり、それぞれの得意分野をいかして企画し、駅前から地域を変えていくこと、積極的にイベントを実施してきました。

また、柳沢公民館主催の日本語講座とのコラボも実現させ、外国の人たちとの交流も図りました。子ども同士も保育室で交流しています。先日、町の中で、子どもが犬を見て「DOG」と叫んだことに驚き、親が気がつかないところで、大きく成長している姿を発見しました。そして、これまでは、自分ごとだけしか考えていなかったが、地域・子育て・仲間を含めて、物事を広く考えていく自分にも気づかれました。

メンバーたちは、自分たちの活動から西武柳沢駅周辺の活性化を図っていき、お母さんだけのサークルではなく、お父さんを含めたサークルを考えていると、話は盛り上がりつつありました。

13人のメンバーは、元デザイナー、添乗員、メモとりが上手な人、などなど、多才な面々。グループ名の由来は、「白金ネーゼ」を意識し、柳沢界隈を闊歩する女性群という造語です。自分たちが輝き、地域を変えていくという発想から、この名前にしたそうです。



目の不自由な方に声の「公民館だより」をお届けしています

谷戸図書館(☎421-4545)へお問い合わせを